「100年経営の会」

顕彰制度創設へ

今秋で3周年　全国に活動広がる

100年経営の会（事務局＝日刊工業新聞社）は7月22日、東京・飯田橋のホテルグランドパレスで通常総会を開いた。2013年度の事業報告・収支報告を行い、14年度の事業計画・予算などを審議・承認した。本年度は引き続きシンポジウムの開催や日刊工業新聞紙面などを通じての情報発信を行うほか、優れた経営理念を持つ長寿企業などの顕彰制度を創設する。11年10月に設立され秋には3周年を迎える同会の活動が、いっそう加速することになりそうだ。

優れた経営理念を掲げ続け、地域にも貢献する企業の顕彰制度創設を計画（通常総会）

通常総会開く

総会の議長をつとめた北畑隆生100年経営の会会長（元経済産業事務次官）はあいさつで「桃栗三年柿八年」のことわざを引き、当会活動が地方での活動を含め全国に向けて徐々に広がりをみせていることを確認した。13年度事業としてはまず、シンポジウム事業として2月に京都市内で「京都老舗の会」（事務局＝京都府）と共催で「老舗フォーラム　100年経営を考える」を開催したことを報告。日本で最も長寿企業が集積する京都では何百年という歴史を持つ老舗が数多く存在感を示している。それら老舗の経営トップが登壇し、長い歴史の中で困難を乗り切って発展を続けてきた経緯や、受け継がれてきた経営理念、さらには新たな発展に向けたイノベーションへの取り組みなどについて紹介した。登壇したのは服部重彦島津製作所会長、佐竹力総美濃吉社長、鈴鹿旦久聖護院八ッ橋総本店社長で、「企業の継続について　危機への対応を中心に」と題する鼎談（ていだん）で活発な議論を交わした。服部会長はモノづくり企業の立場から、大学や研究機関が数多い京都の産学連携を育む風土を指摘した上で、トップのリーダーシップの重要性を指摘した。佐竹社長は老舗料亭の格式にとらわれず、新たな業態にも挑戦している経営革新について紹介。鈴鹿社長は和菓子の伝統を守り、地域の同業他社とも連携している老舗の姿勢を披露した。

会員を中心に開催する勉強会事業では野田泰三セラリカNODA社長、水野雄氏旭リサーチセンター社長が各社の伝統と理念などについて披露したほか、海老澤栄一神奈川大学名誉教授が「生命経営学への途」と題して、企業が長期的に存続・成長していくために必要な行動などについて説いた。

14年度もシンポジウムや勉強会事業などを引き続いて開催する。さらに長寿企業の中から、優れた経営理念を掲げるとともに、地域に貢献し従業員の雇用を守り続けてきた企業について顕彰する制度を創設する計画。地域ごとの経済産業局などとも連携して表彰制度を構築する。また全国の会員企業を相互に訪問し、経営について深く語り合い、モノづくりの現場などを見学したりする見学会なども新たに開催する。訪問先についてはさっそく数社が名乗りを上げた。

総会後には同会の顧問や、地方からのオブザーバーも加わり懇親会が開かれた。島田博夫シマブンコーポレーション名誉会長が乾杯の音頭を取り、懇親した。さまざまな業種の企業が集まる同会では交流の中からビジネスにつながった事例もこれまで見られており、今回も新たな連携のきっかけが生まれたようだ。

経営交流　会員企業 相互に訪問

内外への情報発信 拡充

総会後の懇親会で交流を深めた

あいさつ

100年経営の会会長　北畑 隆生 氏

強さの秘密を研究・発信 活動 地方に拡大

発足前の11年夏に、プレイベントとして優れた長寿企業が登壇するシンポジウムを開いた。100年を超える長寿企業は日本に2万社以上あり、これは世界の半分以上を占める。それらの企業は関東大震災、世界大戦、恐慌など幾多の危機をも乗り越えてきたわけで、東日本大震災後の日本経済が自信を取り戻すきっかけにしようと考えた。これが当会設立につながった。

日本の長寿企業の強さの秘密を研究して発信する活動は地方にも広げている。今回堺から200年企業のダイネツ・葛村社長に講演いただいたのは意義深く、感銘を受けた。地域を大切にし、信頼と誠実を重んじてこられたが、それらは財務諸表には表れない日本企業の良さではないか。

経済産業省 政策評価広報課長　前田 泰宏 氏

長寿企業の経営手法 日本ブランドに

日本の長寿企業による100年経営には世界が注目している。米国などにおける経営手法の、ある意味対抗軸的な存在として、日本のブランドになりうるものだと考える。それを世界に発信する100年経営の会の活動も、発足以来充実してきたのではないか。

経済産業省についていえば、現在の組織となって15年が経過しようとしており、精神性の確認というか、組織を見つめ直す時期に来ているのかもしれない。歴史的に見れば農商務省から130年、商工省となってから90年であり、この100年経営の会における知見や、何百年もの歴史がある会員企業の理念などから学ばせてもらいたい。

日刊工業新聞社社長　井水 治博

創刊100周年「伝統と革新」の精神で変化に適応

2011年秋に発足以来、本会は日本型経営の良さを発信する取り組みを着実に行ってきた。シンポジウム、地域フォーラムなどの行事はいずれも盛況で多くの方の共感を得ている。2月に京都で行った「老舗フォーラム」は、京都府が事務局を務める「京都老舗の会」と共催したもので、これらをきっかけに全国の団体などとの連携も進めたい。当会の活動の幅も広がっていきそうだ。

当社が発行している「日刊工業新聞」は来年創刊100周年を迎える。新聞業界を取り巻く環境は大きく変わっているが、当社も「伝統と革新」の精神にのっとり、信頼を守りつつ時代の変化に適応した新聞を発行し続けていく。

記念講演

ダイネツ社長　葛村 和正 氏

創業201年「誠実」「信頼」の伝統

地域と密着　堺企業の誇り大切に

昨年創業200年を迎え、金属熱処理を行っている。本社は堺で、同じ場所で200年仕事を続けている。1813（文化10）年、鉄砲をはじめとする鍛冶の炭問屋として創業した。当時の看板が残っている。明治期にはコークス、練炭を製造し、炉などの設備を活用して戦中にプロペラなど兵器の焼き入れを始めた。戦後は大阪熱工、ダイネツと社名変更し、事業を拡大してきた。

金属熱処理は800－1000度Cに加熱した金属を焼き入れ、焼きならし、焼きなまして冷却するもので内部組織を変える。東京スカイツリーをはじめ風力発電、自動車関連と、生活のさまざまなところで当社の技術が使われている。対象となる社員の9割以上の106人が熱処理技能士を取得している。

200年を記念してスペインのサグラダファミリアの主任彫刻家で、私と生年月日が同じの外尾悦郎さんにブロンズ像「炎の女神」を製作してもらった。当社の仕事は炎を使うわけで、それを制御する女神の像だ。内部からの発色で青、赤、白、黒と彩っている。この堺の発色技術は、世界遺産であるサグラダファミリアにも使われることになっている。

堺商工会議所の副会頭を務めていることもあり、堺のPRもしている。堺は昔から皆が自由都市としての誇りを守り「堺は一つ」といった気概を持って仕事をしている。「ものの始まりなんでも堺」という自負がある。「三味（しゃみ）も小唄もみな堺」という一節もあるほどだ。例えば16世紀にポルトガルから種子島に伝わった鉄砲を、分業を導入したことで15年後の堺では当時の世界最大、年間30万丁製造できたという記録がある。堺のモノづくりのDNAの原点だ。

企業として200年続いているが、こうした地元と密着したことが続く要因だと考えている。今宮戎神社からも毎年福娘さんたちに当社へ巡行してもらい、福を持ってきてもらっている。福娘の大阪締めで当日招いたお客さまたちと商売繁盛を願う。大阪締めは天神祭で船が行き交う時にも交わされる。私たちの心意気だ。

地域とのかかわりが経営上では「ロス」とみなされる時代かもしれないが、それを無駄とは考えていない。地域とのつながりは一朝一夕ではできない。50年100年と続けることが大切だ。

私は十代目に当たるが、代々受け継いでいるのは「誠実さ」と「（お客さまからの）信頼を勝ち取ること」だけ。信頼いただけないと企業はもたない。たとえ自分が損をしたとしてもよい。

「葛村さんが言うんなら仕方ないな。任せよう」と言われるくらい信用される人間になれ、と息子には言っている。

◇◇◇

総会・講演会後の懇親会は、葛村社長が音頭を取る「打ちぃまひょ」で始まる大阪締めで、明るくお開きとなった。

モノづくり体感スタジアム

ぼくらの、未来の、つくりかた。

会期　2014年 8月29日(金) 11:00〜17:00 ▶ 30日(土) 10:00〜17:00　入場無料

会場　青山学院大学　青山キャンパス　17号館　3階

ちいさな、えんぴつな、きみたちへ。

紙でつくったはじめての工作も、日本が世界にほこるゲーム機や車も、スマートグリッドなんて言う、聞きなれない新しい技術も。すべてのモノづくりは、その手に握られた一本のえんぴつから、はじまったりすること。そして、失敗してうまくいかない時も、上を向いて夢中で取りくんでいれば、そこから何かが生まれたりすること。
そんな想いを伝えたくて、『モノづくり体感スタジアム』は今年、この‘上向きのちいさなえんぴつ’のマークをつくりました。
‘上向きのちいさなえんぴつ’は、きみたち自身。
このイベントでは、そんな君たちが遊びながらモノづくりのおもしろさを感じられるようなアイデア（楽しい理科や科学の実験から、未来の発明品みたいなものまで）をたくさん準備しているところです。
それでは、会場の‘上向きのちいさなえんぴつ’の目印の前で、いっしょに遊べる日を楽しみに待ってます。
『モノづくり体感スタジアム』より

当日受付可　このマークのある企業は、キャンセルがあった場合と、人数が未達の場合に当日の受付をします。　プログラムは予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。

モノづくり体感ワークショップ　モノづくり企業だからできる楽しい科学・理科教室などを通して、モノづくりの楽しさを伝えていきます。今こそ、子どもたちに、モノづくりのチカラを。

OKUMA　オークマ株式会社　手作りおもちゃを作って遊ぼう！　事前申込　当日受付不可
普段、大人でもめったに経験できない、金属材料を使った「手作りおもちゃ」（コマ）を作ります。型抜きややすりがけを通して、モノづくりを体験できます。知恵と道具を上手に使い、手作りおもちゃを完成させます。

全日本製造業コマ大戦　全日本製造業コマ大戦　子どもコマ大戦　事前申込　当日受付不可
全日本製造業コマ大戦の子ども版です。全国の町工場が作った、とても精度の良い部品を使い、コマを組み立て、バトルします。作ったオリジナルのコマはお持ち帰りできます。1時間ほどのワークショップですので、お気軽に参加してください。

Canon　キヤノン株式会社　レンズ工作教室　事前申込　当日受付可
レンズ、カメラの仕組みをわかりやすく説明した後、虫めがねと工作用紙など身近なものを使って、デジタル一眼レフカメラのレンズを工作します。その後、撮影会を行い、お気に入りの写真をプリントアウトしてプレゼントします。

TORAY　東レグループ　センイの不思議　事前申込　当日受付可
“水玉がおどるセンイ”“水をきれいにするセンイ”“飛行機をつくるセンイ”といった不思議なセンイの仕組みや社会での役立ち方を、実験を交えながら体験する実験教室です。

KOMATSU　コマツ　こども鋳物（いもの）教室 〜金属を溶かしてストラップを作ろう！〜　事前申込　当日受付可
「鋳物」ってどんなものかしっていますか？　溶かした金属を加工し「鋳物」のストラップづくりにチャレンジしてみよう！

航空電子　日本航空電子工業株式会社　ジャイロってなんだろう？ 作って体験してみよう！　事前申込　当日受付可
ロケットや飛行機が今どこへ向かって飛んでいるかを測る（知る）機械には、コマの原理を応用したジャイロが使われています。実際に簡単なジャイロを作って、どうやって測っているかを体験して頂きます。

芝浦工業大学　芝浦工業大学 地域連携・生涯学習センター　LED花火をつくろう！　事前申込　当日受付可
発光ダイオード（LED）を使い、光る電子花火を作ります。マイコンを使用し、LED花火を点灯させる順序とその時間を変化させ、花火を表現しています。LEDの点滅や電子部品のはんだづけなど、電気工学の基礎を学ぶことができます。

モノづくり日本会議 ―モノづくり推進会議NextStage―　日刊工業新聞社
同時開催　こどものためのワークショップの博覧会 ワークショップコレクション

詳しくはこちらのHPから!!
URL http://mono-stu.jp/
本イベントでは、事前申込制のプログラムがあります。お電話やFAXでは受付しておりません。予めご了承ください。携帯からでも申し込み可能です。

お問合せ　モノづくり日本会議 事務局
〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1（日刊工業新聞社内）　Tel.03-5644-7608　Fax.03-5644-7209　E-mail：info@mono-stu.jp　担当：甲斐